

保護者様・地域の皆様

世田谷区立八幡山小学校
 学校関係者評価委員会委員
 委員 佐藤 文宏
 青木 昭文
 小野寺里美
 綿抜 千春

学校関係者評価報告書

柔らかな日ざしが、日一日と暖かさを加える季節となりました。

昨年にご多用のところ、学校関係者評価アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。集計結果、各行事のアンケートの声、学校の様子、教職員からの聞き取りを基に、八幡山小学校令和7年度の重点目標に沿って以下のように評価しましたので、御報告いたします。

令和7年度学校関係者評価アンケート調査の概要

- ・調査実施日 令和7年11月
- ・調査対象者と回収率 児童(5、6年)159名/95% (前年度100%)
保護者273名/57% (前年度61%) 地域35名

重点目標1 キャリア・未来デザイン教育の実現

☆ 「キャリア教育」を推進し、人間関係や社会を育成する力、課題に対応する力、論理的な思考力や自ら主体的に判断する力などを育てていく。

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)
自分の生き方や将来のことに、考える授業がある	81% → 66%	先生は、子どもの生き方や将来のことに考える授業をしている	47% → 79%
目標をもち、その実現に向けて努力している	78% → 74%	学校は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している	58% → 56%

- ◎ 児童アンケートでは、自分の生き方や将来のことに、考える授業の項目についての肯定的評価が昨年度から15%ほど低下した。6年生へは、学校支援コーディネーターを中心に、ゲストティーチャーを招き、様々な職種について話を聞く授業を行っており、自分自身の生き方や将来について考える機会をつくった。しかし、ゲストティーチャーの授業前の評価であったことも原因の一つと考えられる。また、道徳の授業やキャリアパスポートを活用して近い将来のことに、目標を立てていた。それらの機会を通して、生き方や将来のことを考える時間を認識していると考えられる。日々のアプローチが、キャリア教育とつながって視覚化できていないことが原因とも考えられるのではないかと。
- ◎ 保護者アンケートにおいては、子どもの生き方や将来のことに、考える授業の取組について昨年度より、肯定的評価が上がった。6年生が起業家教育を行い、学習発表会で実際に商品を作るなど授業と学びをつなげたことが結果につながったと考えられる。また、キャリアパスポートについての紹介をアンケート内で行ったことで、理解が得られたとも考えられる。しかし、今年度は、行事が計画通りに行われず、行事での達成感などの実感を児童が得られていないのではないかと懸念があり、高い評価につながらなかったとも考えられる。今後も行事を児童自身が作り上げたと思われるような取組を行っていく必要がある。

重点目標2 教育DXの推進

☆ GIGAスクール構想の下、一人一台タブレット端末を計画的に有効活用していく。また、デジタル・シティズンシップを身に付けるために、ルールを徹底するだけでなく、自らが考え行動できるよう計画的な指導を行う。

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)
めあてについて、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業で取っている	86% → 86%	子どもの考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている。	76% → 77%
黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	82% → 81%	子どもの話し合いや発表の機会がある。	80% → 81%
授業では話し合ったり発表したりする機会がある。	86% → 87%	映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	73% → 56%
映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	88% → 78%		
授業で分からないことは、分かるまで解決しようとする。	73% → 69%		

- ◎ 保護者アンケートの「タブレット活用」の項目では肯定的回答が、昨年度から大きく下がった。タブレットの使用が機械的になってきていることが考えられる。しかし、タブレットの活用が低いからと言って、分かりやすい授業ができていないということにはならない。しかし、分かるまで解決しようとするという項目においても、4%下がっている。授業内で追及したくなるような意欲の継続ができる授業の工夫が必要である。

その他

【思いやりのある子ども】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	地域アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)
すすんであいさつができる	83% → 77%	子どもたちはよくあいさつできる	74% → 78%	子どもたちはよくあいさつができる	80% → 86%
きまりを守って行動している	85% → 75%	ルールを守る指導をしている	72% → 79%	交通ルールを守っている	80% → 88%
交通ルール（自転車運転）を守っている	91% → 87%				

- ◎ あいさつは相手とのコミュニケーションの始まりであり、他者理解を深める第一歩を児童に身に付けさせたいという思いから、「あいさつができる」という項目を指標としている。学校・家庭・地域が連携しながら取り組んでいくことが大切である。昨年度に比べ、児童アンケートは下がったが、保護者と地域の評価は上がった。子どもたち自身は、さらに率先して行う必要があると感じているが、保護者や地域ができていると感じているということは、児童自身が自然に挨拶をできるようになってきているという結果ではないか。実際に校内でのあいさつも増えたように実感している。継続して取り組んでいきたい。
- ◎ 交通ルールに関しても、地域での評価は上がっている。児童自身は、どんなところに課題があるかを自分たちで話し合うなど、主体的に行うことでさらに交通安全の意識を高め、日常的な行動に移すことができるのではないかと。

【体も心も健やかな子ども】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)
運動することが好き	79% → 74%	体力の向上や健康な生活に取り組んでいる	76% → 79%

- ◎ 昨年度まで大きく伸びたこの評価だが、今年度は昨年度とさほど変化がなかったといえる。何かの競技をすることだけが運動ではなく、体を動かすことを運動と捉え、体を動かすことの意義と情報を伝えていくようにする。体を動かす楽しさを伝えるために、リーダー的な児童が流行となる遊びを作ってあげることも、体を動かす機会を増やすことにつながる。たとえば、スポーツデイなどを作り、ボールに触れる日を増やしたり、何かの大会を企画するなど、委員会との連携も考えられるのではないかと。

【学校運営・教職員・友人関係】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)
先生はていねいに教えている	93% → 90%	教職員はていねいに指導している	87% → 84%
先生たちに相談できる	66% → 72%	相談しやすい	74% → 61%
先生はだれに対しても公平である	79% → 77%	子どもと先生とのコミュニケーションがとれている。	76% → 80%
		校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	82% → 84%
相談しやすい友達がいる	88% → 88%		

- ◎ 保護者の「相談しやすい」項目が低くなった。例えば、保護者は話したいと思っても、保護者会後に話そうとすると、担任の前に行列ができたり、15分では話しきれなかったりと、先生と相談する時間が限られているということがあるのではないかと。相談の仕方が分からないとならないように、方法や手段をどこかで伝えることができるとうい。また、担任以外にも相談できるという窓口を伝えることも有効ではないか。相談するのは担任だけではなく学校にいる大人でもよいという認識にしていくことなどが考えられる。

【広報・情報提供】

保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	地域アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)
ホームページやメールなどで情報を提供している。	92% → 94%	学校からのお知らせ(学校だより)などで、学校の様子が分かる。	97% → 100%
「学び舎」の区立幼稚園や中学校について情報が提供されている。	45% → 80%	学校公開や道徳授業地区公開講座などで、学校の様子が分かる。	88% → 91%
学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。	92% → 90%	ホームページに、学校からのお知らせや学校の生活の様子が分かる情報が掲載されている。	87% → 86%
		学校運営委員会が、よく役割を果たしている。	69% → 69%

- ◎ 「学び舎」の活動については、昨年度に引き続き、「架け橋期の教育」についての研究授業を進め、学び舎の幼稚園や保育園との交流を通して「やわらかい心」をはぐくむ取組を積極的に取り入れた結果と言える。具体的な活動で、保護者や地域にもその様子が分かりやすかったのではないかと。代表委員会と学び舎の委員会などで話し合っている活動は、もっと広く学校全体に報告をしていくことが大切なのではないか。また、進学する学校についての実感を伴う活動などがあると、キャリア教育にもつながると考えられる。
- ◎ 「ホームページやメールでの情報発信」の項目において、保護者・地域とも昨年度よりも肯定的評価はあまり変化がなかった。日々の生活などをHPに多く発信したことが昨年度に引き続き、高評価の要因と考えられる。今後も、学校行事だけではなく、授業の様子など、定期的に情報を発信していくことが必要だと考える。

【学校の安全】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	地域アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)
登下校のきまりや交通ルールを守っている	91% → 87%	避難訓練やセーフティ教室などで、安全に関する指導をしている。	76% → 90%	安心・安全な学校づくりを進めている。	92% → 100%
		自然災害時の対応を提供している。	82% → 78%	安全性を高めようと、地域と協力している。	82% → 94%
				「学校と保護者・地域が協力して防犯・交通安全に取り組んでいる」	84% → 91%

- ◎ 今年度、正門の通用門が電子錠になったことは、安心につながった。また、児童の「登下校のきまりや交通ルールを守っている」の肯定的回答は、91%から87%にやや下降した。しかし、地域の評価は、前述と同じように、肯定的評価が高いことから、児童は、さらに守れるのではないかと自問し、守ろうという意識をもっていることが分かる。来年度も引き続き、教員が定期的に下校指導として校外を見回ることを継続

して行く。児童の安全に対する意識をさらに高めるために、家庭・地域・学校が協力して、継続的に児童の安全を見守っていく必要がある。

- ◎ 地域の「安全性を高めようと協力している」「協力して取り組んでいる」の項目では、どちらも肯定的評価が上昇した。災害に対する対策等は地域とのつながりや保護者の理解も大変重要となってくるので、今後も、学校から保護者や地域に対して活動の報告や、協力して行える安全指導などに取り組んでいく必要がある。

【学校生活全般】

児童アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	保護者アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)	地域アンケート	肯定的回答の変化 (R6→R7)
学校生活は楽しい。	88% → 84%	学校生活は、子どもにとって楽しい。	89% → 84%	学校と保護者・地域が協力して防犯・交通安全に取り組んでいる。	84% → 91%
学校が好き	77% → 77%	子どもは家庭で自主的に勉強している。	56% → 61%	地域の意見に対して、ていねいに説明・対応している。	69% → 83%
家庭で e-ラーニングでの学習をしている	64% → 64%	教育活動に満足している。	79% → 78%		

- ◎ 「学校生活は楽しい」の項目では、昨年度と比べ、児童・保護者ともに4ポイント下がった。友達と関わることで楽しく学校生活を送ることができるように教育活動を工夫して行っているが、児童や保護者のニーズに応えられるよう、より創意工夫を凝らし、関わり合いながら学習を進める必要があると考える。
- ◎ 地域の「丁寧に説明・対応している」が大きく上昇した。昨年度の反省を生かし、地域とのコミュニケーションを大切に行ってきた結果と言える。
- ◎ 塾や e-ラーニングなど、大人が制限をかけすぎると、児童の自主性を高めるのには難しくなってくる。親がいない間や、公園などでもインターネットを使い、問題が起きることもある。児童に、ネットリテラシーをさらに身に付けさせ、早い時期からインターネットの健全な使い方を身に付けさせ、タブレットの使用も含めた自主的な学びに向かう工夫を行うことができるのではないかと考える。

【提言】

- ① 金スポや運動委員を活用することで、体を動かす習慣を付け、心も体も健やかな子を育てる。
- ② なりたい自分や自分の生き方について考える授業や行事を行うことで、課題解決の力を育成し、キャリア教育につなげる。
- ③ 各学年にあったネットリテラシー指導を行うとともに、家庭でもルールの見直しを親子で行うよう分かりやすく伝える。

*以上3点を令和7年度学校関係者評価委員会として提言する。